

漁業の軽労化のための普及啓発活動

水産業システム研究センター

研究の背景・目的

漁業者が腰痛などの疾患に悩まされることなく高齢に至るまで快適に働けることを目指して、身体に過重な負担がかからない漁労作業の方法を見出す軽労化の研究に取り組んでいます。漁業の軽労化を実現するためには、漁業者の皆さんに軽労化の考え方をご理解いただくとともに、作業方法の改善につながる正しい知識を持っていただくことが必要です。そこで、研究開発と並行して普及啓発活動にも取り組んでいます。

研究成果

水産工学研究所が主催する会議や各種の学術講演会、あるいは水産庁補助事業の一環で行われている漁業カイゼン講習会などの機会を通じて、漁業者や漁業関係者に対して普及啓発活動を行いました(図1)。漁業用軽労化支援スーツなどの研究成果物を漁業現場に持ち込み、漁業者が試着し感想を聞かせいただくなど、改善意見の収集にも積極的に取り組みました(図2)。

波及効果

漁業者に軽労化の考え方や作業改善の知識が普及することで、高齢者だけでなく女性でも安全かつ快適に働くことのできる漁業労働環境が整備されることが期待されます。安全で快適な労働環境は職場としての魅力の向上にも繋がることから、新規就業の増加も期待されます。

(漁業カイゼン講習会は、水産庁「安全な漁業労働環境確保事業(補助事業)」の一環として、(一社)全国漁業就業者確保育成センター主催により実施しています)



図1 講習会等の普及啓発活動



図2 軽労化支援スーツの試着体験

(生産システム開発グループ: 高橋秀行、水産土木工学部: 佐伯公康)